

# V-ing：動名詞と現在分詞の分類をめぐって

中 澤 紀 子

## 0. はじめに

英語という個別文法の中で、文法形式 (grammatical form) は同じでも、複数の異なる文法機能 (grammatical function) を持つもののひとつに動詞の-ing形 (V-ing) がある。英語におけるV-ingは、ふつう、派生名詞 (derived nominal; deverbal noun<sup>1</sup>)、動名詞 (gerund; gerundive nominal; verbal noun<sup>2</sup>)、現在分詞 (present participle) のいずれかに分類されるが、なかには、二つ以上のものに分析可能な例もあり、また、それぞれの特徴を併せ持つ融合的な例もあり、その三者の分類は一筋縄では行かない。特に後の二者、動名詞と現在分詞については、歴史上の異なる語尾の融合の事実もあって、その分類については永く議論的になってきた。

本稿では、分類しがたい例を無理やりどれかに分類するのではなく、三者の特徴を細かく分析していき、三者それぞれの典型例は、基本的にどんな特徴を有しているか、また、どんな特徴を共有することによってそれぞれの構造が拡張したり、二者が融合するのかを現代英語 (Present-day English) を対象とした共時的 (synchronic) 立場から考察していく。

---

<sup>1</sup> Quirk et al. (1976 : 134) 他の用語.

<sup>2</sup> Quirk et al. (1976 : 134) 他の用語.

## 1. 派生名詞 (derived nominal; deverbal noun)

動詞に派生接尾辞 (derivational suffix) を付加し、語形成 (word-formation) によってできた名詞を、派生名詞 (derived nominal) または、動詞由来の名詞 (deverbal noun) と呼ぶ。動詞から派生名詞をつくる接尾辞には、-er (-or), -ant, -ee, -ation, -ment, -al, -ing, -age などがある。この中で、動詞から「状態 (state)」や「行為 (action)」などを表す抽象名詞をつくる接尾辞は、-ing の他に、-ation, -ment, -al などがある (例: fixation, exploration, justification, education; arrangement, amazement; refusal, revival, arrival)。なお、-ing 型の派生名詞は、(A) 動詞から「状態 (state)」や「行為 (action)」などを表す抽象名詞をつくる場合 (例: bathing, driving, betting, coming) と、(B) 動詞の表す行為の結果生まれた具象名詞をつくる場合 (例: painting, building, opening, earnings) とがある<sup>3</sup>。

ここで -ing 型の派生名詞に的を絞って、それを含む実例とその意味機能を見てみよう。

- (1) a. Some paintings of Brown's (Quirk et al. (1976 : 133))  
 (ブラウンが所有する何枚かの絵)<sup>4</sup>
- b. Brown's paintings of his daughter (ibid.)  
 (i. ブラウンが所有する, ブラウンの娘を描いた絵)  
 (ii. ブラウン自身が描いた, ブラウンの娘を描いた絵)
- c. The number of reported sightings of UFOs since 1980 is relatively small. (Quirk et al. (1985 : 1290))

<sup>3</sup> Quirk et al. (1976 : 998 – 1000) 参照。

<sup>4</sup> 以下、例文中の下線と日本語訳はすべて筆者による。

- (2) The painting of Brown is as skilful as that of Gainsborough. (ibid.)  
 ( i . Brown's finished product すなわち, ブラウンが描いた絵は,  
 ゲインズバラのよりも巧い)  
 ( ii . Brown's technique of painting すなわち, ブラウンの絵を描く  
 技術は, ... )  
 ( iii . Brown's action of painting すなわち, ブラウンが絵を描く  
 ことは, ... )
- (3) She had witnessed the killing of the birds.  
 (Huddleston and Pullum (2002 : 81))<sup>5</sup>
- (4) She had witnessed the wanton killing of the birds. (ibid., 82)
- (5) Kim hadn't been involved in the writing of the letter. (ibid.)
- (6) She had witnessed the breaking of the seal. (ibid., 1187)

上記(1)–(6)の -ing 形の間にも純粋な派生名詞から動名詞に近いものまで「名詞らしさ」の度合いの違いがあるが、ここで典型的な派生名詞の特徴を列挙してみよう。

#### I. ほかの名詞と置換可能である。

- (1)' a . Some pictures of Brown's  
 b . Brown's pictures of his daughter
- (2)' The picture of Brown is as skilful as that of Gainsborough.  
 ( i の意味のみ)

<sup>5</sup> Huddleston and Pullum (2002 : 80-81) では、動名詞を動詞の範疇に入れ、現在分詞と一緒にして gerund-participle と呼び、この(3)のような-ing形は、真に名詞であるとして gerundial noun と呼んでいる。

II. 複数を表す屈折語尾を持つことが可能である.

- (1) a. Some paintings of Brown's
- b. Brown's paintings of his daughter
- (7) These killings must stop. (Huddleston and Pullum (2002 : 82))

III. V-ing の前に数量詞 (quantifier) や冠詞 (article) を含む決定詞 (determiner) の生起が可能である.

- (1) a. Some paintings of Brown's
- (2) The painting of Brown is as skilful as that of Gainsborough.
- (3) She had witnessed the killing of the birds.

IV. V-ing の後に of NP's あるいは, of NP の形の補部 (complement) をとることが可能である.

- (1) a. Some paintings of Brown's
- b. Brown's paintings of his daughter
- (2) The painting of Brown is as skilful as that of Gainsborough.
- (3) She had witnessed the killing of the birds.

V. V-ing が形容詞によって前置修飾される.

- (4) She had witnessed the wanton killing of the birds.

上記 I - V の特徴は, 派生名詞の特徴であると共に「名詞らしさ」の指標

でもあり、I-Vの特徴の多くを満たしていれば、それだけ「名詞らしさ」の度合いが高いことになる。

以下で、動名詞と現在分詞の特徴を細かく考察していくが、同じ文法形式であるV-ingがその文法機能において、徐々に「名詞らしさ」を減少させ、逆に「動詞らしさ」を増加させていくという「連続的階層性 (gradience)<sup>6</sup>」が現れていることに注目したい。

## 2. 動名詞 (gerund; gerundive nominal; verbal noun)

動名詞は、内部構造は動詞的であり、動名詞全体としての文中での機能、すなわち、外部構造は名詞的であると言われているが、その「名詞らしさ」「動詞らしさ」の度合いには「連続的階層性」が見られる。本節では、動名詞を「名詞的動名詞 (nominal gerund)」と「動詞的動名詞 (verbal gerund)」に分けて、両者の典型例の特徴を分析していく。

### 2.1. 名詞的動名詞 (nominal gerund)

本稿第1節の(3)–(6)のV-ingは、名詞的動名詞としても分類可能である。すなわち、名詞的動名詞の中で最も「名詞らしさ」の度合いが高いV-ingは、次の特徴を持つ。

Ⅲ. V-ingの前に冠詞 (article) を含む決定詞 (determiner) の生起が可能である。

---

<sup>6</sup> Quirk et al. (1976: 135) および、安井 (2004: 558) 参照。

IV. V-ing の後に of NP の形の補部 (complement) をとることが可能である。ただし、この of NP の NP は、V-ing の V の意味上の目的語でなければならない。

V. V-ing が形容詞によって前置修飾される。

(4) She had witnessed the wanton killing of the birds.

(8) Brown's deft painting of his daughter is a delight to watch.

(Quirk et al. (1976 : 133))

(ブラウンが自分の娘を見事に描いている様子は、 ... )

(9) I resented his constant questioning of my motives.

(Huddleston and Pullum (2002 : 1189))

上記 III' - V の特徴に加えて、名詞的動名詞は次の特徴を持つ。

VI. V-ing の前に属格の (genitive) NP を持つことが可能である。ただし、この NP は、V-ing の V の意味上の主語でなければならない。

(8) Brown's deft painting of his daughter is a delight to watch.

(9) I resented his constant questioning of my motives.

(10) I enjoyed his reading of the poem.

(Huddleston and Pullum (2002 : 1192))

名詞的動名詞の分布の特徴は、次のようにまとめられる。

VII. 名詞的動名詞は、文の主語の位置と動詞の目的語の位置、および前置詞の目的語の位置に生起する。

- (8) Brown's deft painting of his daughter is a delight to watch. [主語]  
 (9) I resented his constant questioning of my motives. [動詞の目的語]  
 (10) I enjoyed his reading of the poem. [動詞の目的語]  
 (5) Kim hadn't been involved in the writing of the letter.  
 [前置詞の目的語]

## 2.2. 動詞的動名詞 (verbal gerund)

動詞的動名詞は、名詞的動名詞と次の特徴を共有する。

VI. V-ing の前に属格の (genitive) NP を持つことが可能である。ただし、この NP は、V-ing の V の意味上の主語でなければならない。

- (11) Brown's deftly painting his daughter is a delight to watch.  
 (Quirk et al. (1976 : 133))  
 (ブラウンが自分の娘を見事に描いているのは、... )  
 (12) I dislike Brown's painting his daughter. (ibid.)  
 ( i . ブラウンが自分の娘を描いていることが、私は気に入らない)  
 ( ii . ブラウンが自分の娘を描いている描き方が、... )  
 (13) I regretted his leaving the firm.  
 (Huddleston and Pullum (2002 : 1190))

しかし、動詞的動名詞は、名詞的動名詞と明確に異なる次の特徴も有し、VII, VIII は、両者の区別に役立つ。

VII. V-ingの後にVの意味上の目的語をof NPの形でなく、直接NPの形で持つことが可能である。

- (11) Brown's deftly painting his daughter is a delight to watch.
- (12) I dislike Brown's painting his daughter.
- (13) I regretted his leaving the firm.

VIII. V-ingが副詞によって修飾される。

- (11) Brown's deftly painting his daughter is a delight to watch.
- (14) I remember a troop of boy scouts suddenly appearing over the hill.

(Huddleston and Pullum (2002 : 1190))

この他に動詞的動名詞は、より「動詞らしさ」の度合いを高め、現在分詞と部分的に類似する特徴を持っている。

IX. V-ingのVがbe動詞で、後に直接補部 (complement) を持つことができる。

- (15) a . Your being a shareholder is important.

(Huddleston and Pullum (2002 : 1190))

- b . His son's being a friend of the judge hadn't helped at all.

(ibid., 1191)



X. V-ing の V が自動詞で，後に修飾語句を持つことができる。

(16) I resented their going without me.

(Huddleston and Pullum (2002 : 1190))

(14) I remember a troop of boy scouts suddenly appearing over the hill.

XI. V-ing の前に属格の (genitive) NP を持たず無冠詞 (zero article) でも生起できる。

(13)' I regretted (his) leaving the firm.

(15)' a. (Your) being a shareholder is important.

(17) a. Telling her father was a big mistake.

(Huddleston and Pullum (2002 : 1188))

b. He stopped seeing her. (ibid.)

XII. V-ing の前に属格の (genitive) NP ではなく，通格 (common case)<sup>7</sup>あるいは，対格 (accusative case) の NP を持つことが可能である。

(18) Brown deftly painting his daughter is a delight to watch.

(Quirk et al. (1976 : 133))

(19) I dislike Brown painting his daughter. (ibid.)

(14) I remember a troop of boy scouts suddenly appearing over the hill.

(20) a. His son being a friend of the judge hadn't helped at all.

(Huddleston and Pullum (2002 : 1191))

<sup>7</sup> 通格とは，属格以外の格，すなわち主格，与格，対格の総称で，ここでは，この三者のどれであるかが形の上から判別できない場合を表している。

- b. I resented them going without me. (ibid., 1190)  
 c. I caught him reading my mail. (ibid., 1192)  
 d. I remember him reading my mail. (ibid.)

動詞的動名詞の分布の特徴は、次のようにまとめられる。

Ⅷ. 動詞的動名詞は、文の主語の位置と動詞の目的語の位置、および前置詞の目的語の位置の他に、A is B の型の文における be 動詞 (copular *be*) の後に生起する。

- (11) Brown's deftly painting his daughter is a delight to watch. [主語]  
 (12) I dislike Brown's painting his daughter. [動詞の目的語]  
 (13) I regretted his leaving the firm. [動詞の目的語]  
 (21) There's no point in breaking the seal. [前置詞 in の目的語]  
 (Huddleston and Pullum (2002 : 1187))  
 (22) It's a matter of breaking the seal. [前置詞 of の目的語]  
 (ibid., 1188)  
 (23) I have no objection to their/them taking notes.  
 [前置詞 to の目的語] (ibid., 1191)  
 (24) What he doesn't like is Kim's/Kim taking all the credit.  
 [be 動詞 (copular *be*) の後] (ibid.)

### 3. 現在分詞 (present participle)

2.2 節で扱った典型的な動詞的動名詞と、本節で扱う現在分詞との間には、両者の特徴を有しどちらにも分析可能なもの、また、「動詞ら

しさ」の点でも中間的な存在である V-ing がある。それらの存在は、動名詞か現在分詞かという二者択一の分類を試みる者にとっては厄介なものであり、また、Quirk et al. (1972;1976:133-135), Quirk et al. (1985:1290-91), Huddleston and Pullum (2002:80-83;1187-93) にとっては、両者を融合した一つの範疇として捉え直す根拠となったものである。

本稿では、第4節でこのような中間的な V-ing の例を詳しく分析して行き、そのような存在こそが、ある構文が基本形から別の構文をモデルにして拡張して行く過程を実証するひとつの根拠となり、さらに、そのような構文の拡張過程を説明することが可能な「動的文法理論 (dynamic theories of language)」の妥当性を検証するひとつの証拠となることを目指す。

動詞的動名詞と現在分詞との中間的な性質を持つ V-ing の例を分析する前に、本節では、V-ing の中で「動詞らしさ」の度合いの最も高い、現在分詞の典型例について、その特徴を見てみよう。

現代英語における現在分詞の文法機能は、主に、次の3つに分けられる。(1)be 動詞と共に進行形をつくる (progressive auxiliary としての) 機能、(2)分詞形容詞 (participial adjective) として名詞を前置修飾または後置修飾する、(3)分詞構文 (participial construction) を形成する。

### 3.1. BE 動詞と共に進行形をつくる (progressive auxiliary)

(25) He is painting his daughter. (Quirk et al. (1976:134))

(26) a. The train to Bath is now approaching Platform 3.  
(Huddleston and Pullum (2002:80))

b. They are entertaining the prime minister and her husband. (ibid.)

c. You're frightening me. (ibid.)

### 3.2. 分詞形容詞 (participial adjective)

- (27) a. He threw it in the path of an approaching train.  
 (Huddleston and Pullum (2002 : 80))  
 b. The train approaching Platform 3 is the 11.10 to Bath. (ibid.)
- (28) a. The silently painting man is Brown. (Quirk et al. (1976 : 134))  
 b. The man painting the girl is Brown. (ibid.)

上記のように、分詞形容詞は、名詞を前置修飾や後置修飾によって限定する機能を持っている。

また、ある種の分詞形容詞は、be動詞や*seem*などの(主格)補語になることや、*very*による修飾が可能である。しかし、同一の動詞のing形であっても(例えば、*entertaining*や*frightening*)、下記の(29) a, bは、3.1節の(26) b, cのようにbe動詞と共に進行形をつくる場合とは、主語の意味役割( $\theta$ -role)が異なることが分かる。また、V-ingのVの目的語が現れている場合は、*seem*の主格補語になったり、*very*によって修飾することはできない(30) b, (31) b参照)。

- (29) a. The show was entertaining.  
 (Huddleston and Pullum (2002 : 80))  
 b. Such a prospect is frightening indeed. (ibid.)
- (30) a. The show seemed entertaining. (ibid., 81)  
 b. \*The show seemed entertaining the prime minister and her husband.
- (31) a. The show was very entertaining. (ibid.)  
 b. \*The show was very entertaining the prime minister and her husband.

これらの例から、be 動詞や *seem* などの（主格）補語の位置<sup>8</sup>に生起可能な分詞形容詞や *very* で修飾可能な分詞形容詞は、V-ing形のVに意味的制限があるだけでなく、Vが本来持っている目的語などの補部を従えず、V-ing単独で生起する点からも、「動詞らしさ」をかなり失い、形容詞として固まりかけた表現であると考えられる。

それでは、*watch* などの知覚動詞の目的格補語の位置<sup>9</sup>に生起するV-ingは、どんな特徴を持っているのだろうか。

(32) I watched Brown painting his daughter.

(ie : *either* I watched Brown as he painted

*or* I watched the process of Brown ('s) painting his daughter)

(Quirk et al. (1976 : 133))

(i. 私は、娘さんの絵を描いているブラウン氏を見た.)

(ii. 私は、ブラウン氏が娘さんの絵を描いているのを見た.)

Quirk et al. (1976 : 133) に示された2種の意味解釈のうち、前者 (i) からは、このV-ingが *Brown* を後置修飾する分詞形容詞であると考えられ、一方、後者 (ii) の意味解釈からは、同じV-ingがもっと「動詞らしさ」の高い、現在分詞そのものであると考えられる。

### 3.3. 分詞構文 (participial construction)

進行形の場合と並んでV-ingの文法機能が最も「動詞らしさ」を示すのが、いわゆる分詞構文である。

<sup>8</sup> 学校文法で用いられる5文型においてS + V + CのCにあたる位置である。

<sup>9</sup> 学校文法で用いられる5文型においてS + V + O + CのCにあたる位置である。

- (33) a . Painting his daughter, Brown noticed that his hand was shaking.  
 (ie While he was painting) (Quirk et al. (1976 : 134))
- b . Brown painting his daughter that day, I decided to go for a walk.  
 (ie Since Brown was painting) (ibid.)
- (34) a . Being a foreigner himself, he understood their resentment.  
 (Huddleston and Pullum (2002 : 1188))
- b . His mother being ill, Max had to withdraw from the expedition.  
 (ibid., 1191)
- c . They appointed Max, he/him being the only one who spoke Greek.  
 (ibid. )

上記の下線部は、すべて主節に対して副詞的な従属節の機能を果たしており、(33)の( )内に示されているように従属接続詞を伴った従属節と置換可能である。

#### 4. 動詞的動名詞と現在分詞との接点

2.2節で見てきた典型的な動詞的動詞を V-ing の前に生起する要素で分類すると、特徴の VI, XI, XII からそれぞれ、属格の NP 付き V-ing (Gen NP + V-ing), 無冠詞の V-ing ( $\emptyset$  + V-ing), 通格あるいは対格の NP 付き V-ing (Com/Acc NP + V-ing) の 3 種類になる。これらの生起の分布は次のようになる(ただし、上記 3 種類の例文の並べ方は順不同)。

- (35) a . [Brown's/ Brown deftly painting his daughter] is a delight to watch.  
 (= (11), (18))

- b. [Your/Ø being a shareholder] is important. (= (15) a , (15)' a )
- c. [His son's/His son being a friend of the judge] hadn't helped at all.  
(= (15) b , (20) a )
- (36) a. I regretted [his/ Ø leaving the firm]. (= (13), (13)' )
- b. I resented [their/them going without me]. (= (16), (20) b )
- c. I remember [his/him reading my mail]. (cf. (20) d )  
(Huddleston and Pullum (2002 : 1192))
- d. I caught \*his/him reading my mail. (cf. (20) c ) (ibid. )
- Cf. e. I enjoyed [his/\*him reading of the poem]. (cf. (10)) (ibid. )
- (37) a. I remember [a troop of boy scouts suddenly appearing over the hill]. (= (14))
- b. It involved [?the Minister of Transport's/the Minister of Transport losing face]. (Huddleston and Pullum (2002 : 1192))
- (38) a. I have no objection to [their/them taking notes]. (= (23))
- b. He objected to [?the girls'/the girls being given preferential treatment]. (Huddleston and Pullum (2002 : 1192))
- (39) What he doesn't like is [Kim's / Kim taking all the credit]. (= (24))

#### 4.1. [母型文の主語] の位置に生起する動詞的動名詞

(35)は、動詞的動名詞句が[母型文の主語]の位置に生起する場合である。この位置では、Gen NP + V-ing, Ø + V-ing, Com NP + V-ing の3種類が生起しているが、このうち最後の1種、すなわち、通格のNP付きV-ing (40) は、記号列を見る限りでは、分詞形容詞が名詞を後置修飾している場合 (41) と区別がつかない。

- (40) a. [Brown deftly painting his daughter] is a delight to watch.  
 (= (18))
- b. [His son being a friend of the judge] hadn't helped at all.  
 (= (20) a)
- (41) a. [The man painting the girl] is Brown. (= (28) b)
- b. [The train approaching Platform 3] is the 11.10 to Bath.  
 (= (27) b)

両者の区別は、母型文の述部の意味特性を見ることによって初めて成される。つまり、(40) a, b においては、母型文の主語は *Brown* や *his son* だけではなくて、[ ] 内全体の「行為」「様態」または「事情」という意味解釈になり、動詞的動名詞の読みが選ばれるが、(41) a, b においては、母型文の主語は *the man* や *the train* であり、それらが分詞形容詞に後置修飾されているという読みが選ばれるのである。

このことから、動詞的動名詞句が[母型文の主語]の位置に生起する場合には、Com NP + V-ing, すなわち、通格のNP付き V-ing の形が、名詞を後置修飾している分詞形容詞との接点になると推測される。これをまとめると、次のようになる。

XIV. [母型文の主語]の位置における動詞的動名詞と現在分詞との接点は、それぞれ、通格のNP付き V-ing (eg (40)) と名詞を後置修飾している分詞形容詞 (eg (41)) が同じ記号列を持つことである。

#### 4. 2. [母型文の動詞の目的語]の位置に生起する動詞的動名詞

(36)(37)は、動詞的動名詞句が[母型文の動詞の目的語]の位置に生起する場合である。この位置では、Gen NP + V-ing, Ø + V-ing, Com/ Acc



NP + V-ing の3種類が生起しているが、どの形を選ぶかは、母型文の動詞の意味特性によって決まる<sup>10</sup>。参考に掲げた(36) e は *enjoy* の目的語が名詞的動名詞になっている例であるが、いずれにせよ、*enjoy* は目的語として名詞的なまとまりを要求し、Acc NP + V-ing は取らないようである。それとは反対に *catch* は Acc NP + V-ing を取り、Gen NP + V-ing は取らない。しかも、この Acc NP は、後の V-ing と動名詞句としてのまとまりを成していないことから、*catch* の補部に生起する V-ing は、3.2 節で検討した *watch* などの知覚動詞の目的格補語の位置に生起す

- 
- <sup>10</sup> Cf. ( i ) a . He is enjoying a smoke.  
 b . I don't really enjoy driving there.  
 c . Did you enjoy playing basketball?  
 ( ii ) a . I regret the follies of my youth.  
 b . I regret not being able to work harder.  
 c . I regret eating the oyster. [= I regret having eaten the oyster.]  
 d . I regret not having worked harder. [= I regret that I did not work harder./  
 I regret that I have not worked harder.]  
 ( iii ) a . Heart disease often involves social factors.  
 b . My job involves interviewing people.  
 ( iv ) a . I strongly resent your remarks.  
 b . I resent you for spreading that rumor.  
 c . The students resented being treated as children.  
 d . He resented my going with his daughters.  
 ( v ) a . I remember seeing/ having seen you before.  
 b . She remembered his/ him saying so.  
 c . He remembered her being inquisitive.  
 ( vi ) a . I like vegetables.  
 b . I like fishing.  
 c . I like playing tennis.  
 d . I don't like your / you sleeping late in the morning.  
 ( vii ) a . The teacher caught a student napping in class.  
 b . The police caught him red-handed.  
 c . We caught him (in the act of ) stealing the money.

る V-ing と類似の文法機能を持つと考えられる。(32) と (36)' d を比較参照。

(32) I watched Brown painting his daughter.

(i. 私は、娘さんの絵を描いているブラウン氏を見た.)

(ii. 私は、ブラウン氏が娘さんの絵を描いているのを見た.)

(36)' d. I caught him reading my mail. (= (20) c)

母型文の動詞のうち、*enjoy*, *regret* のように、後の V-ing に動名詞的な読みを要求するものと、*watch*, *catch* のように、後の V-ing に現在分詞的な読みを要求するものとの中間に(36) b, c の *resent*, *remember* がある。

(36) b. I resented [their/ them going without me]. (= (16), (20) b)

c. I remember [his/ him reading my mail]. (cf. (20) d)

*resent*, *remember* の後の V-ing は、Gen NP を取った時には動名詞的な読みが現れ、Acc NP を取った時には現在分詞的な読みが強まってくる。

以上の観察から、動詞的動名詞句が [母型文の動詞の目的語] の位置に生起する場合には、Acc NP + V-ing, すなわち、対格の NP 付き V-ing の形が、知覚動詞の目的格補語の位置に生起する V-ing との接点になると推測される。これをまとめると、次のようになる。

IV. [母型文の動詞の目的語] の位置における動詞的動名詞と現在分詞との接点は、それぞれ、対格の NP 付き V-ing (eg (36) b, c, d) と *watch* などの知覚動詞の目的格補語の位置に生起する現在分詞の V-ing (eg (32)) が同じ記号列を持つことである。

## 4.3. [母型文の述部の前置詞の目的語] の位置に生起する動詞的動名詞

(38)は、前掲の(21)(22)と合わせて、動詞的動名詞句が[母型文の述部の前置詞の目的語] の位置に生起する場合である。この位置では、Gen NP + V-ing,  $\emptyset$  + V-ing, Com/ Acc NP + V-ing の3種類が生起する。

(21) There's no point in breaking the seal.

(22) It's a matter of breaking the seal.

(38) a. I have no objection to [their/them taking notes]. (= (23))

b. He objected to [?the girls'/the girls being given preferential treatment].

この位置でも、 $\emptyset$  + V-ing と Gen NP + V-ing<sup>11</sup> は動名詞としてのまとまりを意識させ、一方、Com/ Acc NP + V-ing<sup>12</sup> は、動名詞としての読み<sup>13</sup>に加えて、母型文の前置詞あるいは述部全体の目的語としてのCom/ Acc NPとその目的格補語あるいは後置修飾の現在分詞としての読み<sup>14</sup>を意識させる。

従って、この環境でもまた、Com / Acc NP + V-ing, すなわち、通格あるいは対格のNP付き V-ing の形が、動詞的動名詞と現在分詞の機

<sup>11</sup> Cf. (38)'a. I have no objection to their taking notes.

(彼らがメモを取ることに私は反対しない)

<sup>12</sup> Cf. (38)'a. I have no objection to them taking notes.

(i. 彼らがメモを取ることに私は反対しない)

(ii. 彼らがメモを取っているのを私はとやかく言わない)

(iii. メモを取っている彼らに私はとやかく言わない)

<sup>13</sup> Cf. 上記の註12 (38)'a i の意味解釈

<sup>14</sup> Cf. 上記の註12 (38)'a ii, iii の意味解釈

能を併せ持つことが、動詞的動名詞と現在分詞の接点になっていると考えられる。これをまとめると、次のようになる。

- XVI. [母型文の述部の前置詞の目的語]の位置における動詞的動名詞と現在分詞との接点は、上記XV.の[母型文の動詞の目的語]の位置における動詞的動名詞と現在分詞との接点に準ずる。

#### 4.4. [母型文の copular *be* の後] の位置に生起する動詞的動名詞

(39)は、動詞的動名詞が[母型文の copular *be* の後]の位置に生起する例である。諺として有名な“Seeing is believing.”をこの構造に含めるかどうかはここでは議論しないが、少なくとも、この位置にはGen NP + V-ing と Com NP + V-ing が生起する。

ここで注目すべきは、(39)が疑似分裂文(pseudo-cleft sentence)であり、*what*に導かれる自由関係詞節を主語とし、copular *be*を介して、その直後に焦点(focus)要素を置くという構造を持っている点である。この特異な焦点構造の枠組みをはずしてみると、この文の内容は(39)'のようになる

(39)' He doesn't like [Kim's / Kim taking all the credit].

すなわち、(39)のような疑似分裂文の copular *be* の後の位置にどんな V-ingが生起し、どんな意味機能を持つかという問題は、(39)'のような母型文の動詞(例えば *like*)の目的語の位置にどんな V-ingが生起し、どんな意味機能を持つかという問題に還元することができる。

従って[母型文の copular *be* の後]の位置に生起する動詞的動名詞については、(39)のような疑似分裂文に関する限りは、4.2節の議論に準ず

るものと考ええる。

#### 4.5. その他の位置の動詞的動名詞

4.1節から4.4節で扱った以外の位置に現れるV-ingには、(42) a (43) aに見られる *It* を用いた外置 (extraposition) 構文の例がある。

- (42) a. It was silly breaking the seal  
(Huddleston and Pullum (2002 : 1188))  
b. \* It was silly the breaking of the seal. (ibid.)  
c. It was silly to break the seal. (ibid.)  
(43) a. # It amused him breaking the seal. (ibid.)  
b. \* It amused him the breaking of the seal. (ibid.)  
c. It amused him to break the seal. (ibid.)

(42) b (43) b の観察から、この外置された位置に名詞的動名詞は生起できないことが分かる。また、(42) a (43) a の動詞的動名詞は、母型文の動詞によって容認度が変わり、*was silly* のような短い自動詞の場合は容認度が高いが、*amused him* のような長い他動詞の場合は、容認度が低い (Cf. Huddleston and Pullum (2002 : 1188 - 89))。

この外置された位置における Ø + V-ing は、動詞的動名詞本来の読みよりも、(42) c (43) c の to 不定詞 (to-infinitive) に類似する読みを持つように思われる。つまり、(42) a も (42) c も共に、(シールを破る／破ったことは馬鹿な事だった) という名詞的な読みよりも、(シールを破るなんて馬鹿だった) という副詞的な読みが勝っているように思われる。ここで、副詞的な読みという点では、3.3節の分詞構文と共通するが、*It* を用いた外置構文の範囲では、動詞的動名詞と現在分詞の直接の接点は見

られない。

#### 4.6. 動詞的動名詞と現在分詞との接点——まとめ

2.2節で扱った典型的な動詞的動名詞と3節で扱った典型的な現在分詞との間には、本節で見てきたように、両方の特徴を有するもの、また、「動詞らしさ」に関する「連続的階層性」においても両者の中間的な存在である多種多様なV-ingがある。4.1－4.5節で詳しく分析したそれらのV-ingのうち、動詞的動名詞と現在分詞が、それぞれの典型的な特徴を持った「基本形」から他方の特徴を取り込んで「拡張」して行く際の重要な接点になったと思われるものをここでまとめておく。

XV. [母型文の主語] の位置における動詞的動名詞と現在分詞との接点は、それぞれ、通格のNP付きV-ing (eg (40)) と名詞を後置修飾している分詞形容詞 (eg (41)) が同じ記号列を持つことである。

- (40) a. [Brown deftly painting his daughter] is a delight to watch.  
(= (18))
- b. [His son being a friend of the judge] hadn't helped at all.  
(= (20) a)
- (41) a. [The man painting the girl] is Brown. (= (28) b)
- b. [The train approaching Platform 3] is the 11.10 to Bath.  
(= (27) b)

XV. [母型文の動詞の目的語] の位置における動詞的動名詞と現在分詞との接点は、それぞれ、通格あるいは対格のNP付きV-ing (eg (36) b, c, d) と watch などの知覚動詞の目的格補語の位置に生起する

現在分詞の V-ing (eg (32)) が同じ記号列を持つことである。

(36)' b. I resented [them going without me].

c. I remember [him reading my mail].

d. I caught him reading my mail.].

(32) I watched Brown painting his daughter.

(i. 私は、娘さんの絵を描いているブラウン氏を見た.)

(ii. 私は、ブラウン氏が娘さんの絵を描いているのを見た.)

XVI. [母型文の述部の前置詞の目的語] の位置における動詞的動名詞と現在分詞との接点は、上記 XV. の [母型文の動詞の目的語] の位置における動詞的動名詞と現在分詞との接点に準ずる。

(38)' a. I have no objection to [them taking notes].

b. He objected to [the girls being given preferential treatment].

(32) a. I watched Brown painting his daughter.

(i. 私は、娘さんの絵を描いているブラウン氏を見た.)

(ii. 私は、ブラウン氏が娘さんの絵を描いているのを見た.)

以上のように [母型文の主語] の位置においては、通格の NP 付き V-ing と名詞を後置修飾している分詞形容詞が同じ記号列を持っていること、また、[母型文の動詞の目的語] の位置および [母型文の述部の前置詞の目的語] の位置においては、通格あるいは対格の NP 付き V-ing と *watch* などの知覚動詞の目的格補語の位置に生起する現在分詞の V-ing が同じ記号列を持っていることが、動詞的動名詞と現在分詞がそれぞれの「基本形」から他方の特徴を取り込んで「拡張」して行く動機付

けになったと思われる。

## 5. 残された問題

本稿では、現代英語に現れるV-ingを派生名詞、名詞的動名詞、動詞的動名詞、現在分詞に分類し、それぞれの特徴を分析した後、動詞的動名詞と現在分詞に焦点を当てて、その「融合形」ができるメカニズムを探ってきた。その際に残された問題をここでいくつか挙げておきたい。

### 5.1.

ひとつは、動詞的動名詞が、単に「動詞らしさ」だけでなく、「文あるいは節らしさ」を持つ場合である。

(44) a. He resented [\*there's/there having been so much publicity].

(Huddleston and Pullum (2002 : 1192))

b. I won't accept [\*this's/this being made public]. (ibid.)

(44) a は、通例文の主語の位置に生起する *there* が、V-ing の前に生起していることによって、[ ] の部分が「文」の様相を呈する。さらに、[ ] 内の動詞が非定形 (nonfinite) でありながらも完了相を持っていることも、この部分の「文あるいは節らしさ」を表している。(44) b は、*this* が [ ] の部分の主語として機能しているが、[ ] 内の動詞が受動形になっていることから、[ ] 内が *This is made public.* に準ずる「受動文」の様相を呈している。



## 5. 2.

二つめは、V-ingの前に主語の機能を持たない*this* や*no*が生起する場合である。

(45) a. This constant telling tales has got to stop.  
(Huddleston and Pullum (2002 : 1189))

b. Let's have no more of this bringing food into the computer room.  
(ibid.)

(46) a. There was no telling what he might do next.  
(Huddleston and Pullum (2002 : 1189))

b. There'll be no stopping her. (ibid.)

(47) There was no mistaking that scream.  
(ie No one could mistake that scream.) (Quirk et al. (1985 : 1292))

このような文を Huddleston and Pullum (2002 : 1189) では、「混交型の構文 (hybrid construction)」と呼び<sup>15</sup>, (45) a, b のように母型文がthere構文でない時は容認可能性がやや低く, (46) a, b のように母型文がthere構文の時は完全に容認可能であると述べている。

一方, Quirk et al. (1985 : 1292) では, (47) のような文を ( ) 内に示したように法助動詞によって書き換え可能な「法の意味 (modal meaning) を持つ構造」であると説明している. (45) a, b の *this* の例は, 筆者の観察では, これらの *this* が *in this way* のような様態 (manner) を表す意味機能を持つと考えられる。

このように, 動詞的動名詞の「基本形」からは色々な意味で逸脱する

<sup>15</sup> Quirk et al. (1985: 1189) および, 安井 (2004 : 558) 参照.

「派生形」がどうやって生成されるのか、また、その「派生形」が there 構文に起こりやすいのは何故か、という問いに説明を与えるのは、今後の問題である。

### 5.3.

三つめは、形の上では名詞を後置修飾している現在分詞に見える例である。

(48) Anyone knowing his whereabouts should contact the police.

(Huddleston and Pullum (2002 : 1188))

この例は、次のような「条件」の副詞節に書き換え可能であると思われる。

(49) If anyone knows his whereabouts, he/she should contact the police.

このように意味的に副詞節に相当するという点では、4.5節の(42)の *It* を用いた外置構文における V-ing と同様に、分詞構文と共通するが、両者とも、典型的な分詞構文の形を取ることなく、動詞的動名詞の形を取っているのは何故だろうか。そこには、形と意味の矛盾に関わる何らかの拡張のメカニズムが働いている可能性がある。

### 参考文献

Huddleston, R. and G.K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press, Cambridge.

Kajita, Masaru (1977) "Toward a Dynamic Model of Syntax," *Studies in English Linguistics*

5, 44-76.

- Kajita, Masaru (1997) "Some Foundational Postulates for the Dynamic Theories of Language," *Studies in English Linguistics*, ed. by Masatomo Ukaji, Toshio Nakao, Masaru Kajita, and Shuji Chiba, 378-393, Taishukan, Tokyo.
- Koma, Osamu (1980) "Diachronic Syntax of the Gerund in English and the X-bar Theory," *Studies in English Literature*, (English Number), 59-76, The English Literary Society of Japan.
- Koma, Osamu (1987) "On the Initial Locus of Syntactic Change: Verbal Gerund and its Historical Development," *English Linguistics*, vol. 4, 311-324, The English Linguistic Society of Japan.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1972; 6<sup>th</sup> impression (corrected) 1976) *A Grammar of Contemporary English*, Longman, London.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman, London.
- 宇賀治正朋 (2000) 『英語史』 開拓社
- 安井稔 (2004) 「動名詞が危ない」『英語青年』 150:9 (Dec.), 558-561.